

「2022年度タイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部3年 辻本朋顯

① 学習成果

タイ・チュラーロンコーン大学派遣は最初から最後まで最高に楽しかった。過去になってしまうことが悲しいほどに幸せな二週間だった。今回のタイ・チュラーロンコーン大学派遣において、印象的で今後の自身に影響すると考えられるのは主に、授業をはじめとしたプログラム内の学習や、プログラム外のチュラ大の学生との交流、プログラム外のタイでの生活である。

まず、プログラム内の学習では、タイ語、タイの歴史、タイの文化について学んだ。タイの名門であるチュラーロンコーン大学で、タイ人教師たちからタイについて学んだことは、自分にとって自信につながった。このプログラムを終えた今、胸を張ってタイが好きだと言える。また、キャンパスツアーに始まりタイダンスまで、ボランティアのチュラ大の学生さんたちに丁寧に教えていただき、サポートしていただいたことに非常に感謝しており、今後タイなどの外国から学生を迎えることがあれば力になりたい。「してもらう側」の経験が初めてだったので、実際に海外でもてなしてもらうことのありがたさや、どんな事をしてもらうとありがたいのかが自分の中に具体的に見えるようになったことは、このプログラムで得られた学びの中でも特に大きなものだと思う。

そして、今後の人生を確実に変えたものが、プログラム外のチュラ大の学生との交流である。というのも、彼らとは今も交流が続き、ありがたいことに日本で会う大まかな予定までついているからである。同じ班の学生たちをはじめとして、授業後や空きコマに会いに来てくれて、日本人だけでは行けないような所に連れて行ってもらったり、知りえないことを教えてもらったりした。特に、タイで育った同じ年代の大学生たちと一緒に遊んだり、作業したり、個人的なことについて話したりしたことは、単に楽しくてただけではあるが、副次的に多角的な視点や国を越えた共感という、思わぬ収穫を得られることとなった。これは京大のプログラムとして渡航していないと得られなかったことであり、京大に入学してよかったとさえ思わせる収穫である。

また、プログラム外のタイでの生活を経て、タイやタイ人について様々な点で具象的に捉えられ、理解が深まった。例えば、食文化、何気ない行動、宗教観、思考などである。結局あまりにも辛い料理は理解できなかったが、タイ人でも口が痛くなることはあることはわかった。そこ座っちゃう？ってとこに平然とした顔で座ったり、陽気で明るい服をよく着たり、やけに底の厚いサンダルをよく履いたりする。ヒンドゥー教の廟はそこかしこにあり、仏教とあわせて思っていたよりも広く信仰されていた。また、全然裕福に見えない人でも托鉢の僧侶に食料を渡していた。宗教の授業を受けた後からは明らかにタイの宗教への解像度が上がった。値段をふっかけてくる人でも、ふざけたことを言うと笑ってくれるし、ありえないほど冷房が好き。おおざっぱな性格や街並みには、10年後20年後の発展を想像するとわくわくするとともに、あくまで外国人目線ではあるが、そのままタイらしくいてほしいとも思った。

② 海外での経験

あらゆる場所で異文化に触れた。食中毒になった。

③ プログラム内容

タイ語、タイの歴史、タイの文化、チュラーロンコーン大学の学生との共同発表などであった。

④ 進路への影響について

熱帯農業生態学研究室でタイをフィールドにする予定になっており、今後の研究活動に生かせると考えられる。まだ先ではあるが、就職する上でもタイ的な視点をもつことになると思う。